

子どもたちに継続の大切さを語る
田中賢介さん講演会

11/17

11月17日、元北海道日本ハムファイターズの内野手で同球団のスペシャルアドバイザーを務める田中賢介さんの講演会（文化・スポーツ振興2024実行委員会主催）が開かれ、会場の市民会館には少年野球の選手やファンなど約500人が詰め掛けました。講演で田中さんは、自身の経験を踏まえ子どもたちには「何でもいいので、毎日続けられる人が一流として活躍できる人」と熱弁し継続の大切さを伝えたほか、指導者には「経験や勘に頼らず、数字や画像を使うなど、時代に合わせた柔軟な指導が選手を育てる」とアドバイスをしていました。



▲スイング速度を計測する機器を紹介するなど指導法について語る田中さん

地元の魚をおいしく調理
マツカワカレイを使った調理実習を実施

11/27・28

11月27日・28日、北海道登別明日中等教育学校でマツカワカレイを使った調理実習が行われ同校の5年生73人が参加しました。本市が加入する胆振太平洋海域漁業振興協議会は、マツカワカレイの種苗放流を毎年実施し、漁獲した体長35センチ以上の魚を『王鰈』のブランド名で定義しています。調理実習では、2日間で同協議会から提供を受けたマツカワカレイ14匹を使い、講師の登別中央飲食店組合長名畑泰昌さんの指導のもと、生徒たちが魚の5枚おろしに挑戦。おろした魚はから揚げに調理し、みんなでおいしく試食していました。



▲マツカワカレイの5枚おろしに挑戦する生徒



▲健康なまちづくりへの決意を述べる高橋会長

70周年を祝いさらなる飛躍を誓う
スポーツ協会創立70周年記念式典

11/17

11月17日、登別市スポーツ協会の創立70周年記念式典が市民会館で開かれました。式典には所属団体の代表など約90人が出席し、高橋一栄会長が「いま一度スポーツ文化の原点に立ち返って、健康なまちづくりに努めたい」との決意を述べたほか、式典中には、同協会や加盟団体のこれまでの歩みを紹介するスライドが披露され、参加者は、スポーツ協会70年の歴史と本市のスポーツ振興を支えた先人たちの活躍や苦勞に感謝しつつ、次の10年を見据えスポーツ協会と所属団体それぞれの飛躍とともに誓い合っていました。



▲次の10年に向けた決意を話す工藤会長

地域の発展の決意新たに
登別市連合町内会創立40周年記念式典

11/18

11月18日、登別市連合町内会創立40周年記念式典が、市民会館で市内各町内会の役員など約200人が出席し挙行されました。式典では工藤保秋会長が、コロナ禍で活動の中止や縮小が余儀なくされた時期がありながらも、白石市・海老名市との相互連携・協力の締結などに着実に取り組んだ30周年からの10年間で参加者と振り返り、今後、持続可能な連合町内会を継続するため組織業務の改革、改善、見直しに取り組み、安心安全なまちと、一人一人が幸せに暮らせるよう各町内会が力を合わせて団結しようと呼びかけっていました。